

願成寺報

平成二十九年九月十一日

〒四四〇・〇八二二 豊橋市東新町二十八番地

☎ 〇五三二・五二・九六〇一

■ 秋季彼岸・永代経のご案内

今このままを慶ぶことが 仏様への報恩です
そのままの慶びを ご一緒に 見つめ直しましょう

○ 餅つき・草取り会

夏の疲れが残ったままですが、
大切な行事の準備をします。
皆でやれば、きつと楽しい！
春き立てのお餅をオヤツにします。
是非、ご参加下さい。



九月 二十二日(金) 午後一時半 餅つき・草取り会

二十三日(祝) 午後一時半 法要のみ

二十四日(日) 午前十時 法要・法話

正午 お斎(昼食)

午後一時 法要・法話

法話 浄泉寺(岡崎市)
住職 戸田恵信師

避難所を持たない子ども達

一九八六年東京中野区の男子中学生が自死を選んで以来、イジメを無くす為の様々な取り組みが施されて来ましたが、死を選ぶ子が後を絶たず、問題はより深刻になっていると感じます。

イジメを無くそうとする取り組みは尊いけれど、無くなると考えるのは間違いでしょう。イジメは学校ばかりではない、社会にも家庭の中にも厳に存在しています。何処にでもあるのに「イジメは無い」と言わしめる社会通念の方に疑問を感じます。

イジメが有ることよりも、子ども達に避難所が無いことの方が問題です。例えそれがどんなに惨めな自分であっても、無条件に受け止めてくれる人(避難所)があれば、問題は深刻にならずに、それを課題として、上手く付き合っ行ってたかも知れません。

親が避難所を担えない所に問題の複雑さがあります。子ども達は父母を悲しませない様に、自身の悲惨を隠すのです。一昔前なら祖父母がそれを担ったのでしょうか、現代では難しくなりました。家庭や地域が子ども達に「避難所は此処だ」と伝える為には何が必要か…と考えます。大人それぞれが「弱さや失敗を受容して貰える避難所を持つていること」が肝心だと気が付きました。

私がさびしいときに、よその人は知らないの。

私がさびしいときに、お友だちは笑ふの。

私がさびしいときに、お母さんはやさしいの。

私がさびしいときに、佛さまはさびしいの。

〈金子みすゞ全集より (JULIA 出版局)〉

完全なる受容は佛さまにしか出来ないのかも知れません。

願力無窮ニマシマセバ 罪業深重モオモカラズ

佛智無辺ニマシマセバ 散乱放逸モステラレズ

《正像末法和讃・親鸞聖人》

● 正信偈ノ一ト①9・曇鸞章Ⅱ

書き直しを恐れず、今、思い浮かぶところを書き留める

往還回向由他力 正定之因唯信心

黄色の勤行本の

三十三ページから

惑染凡夫信心発 証知生死即涅槃

必至無量光明土 諸有衆生皆普化

往相・還相の回向は他力に由る。正定の因はただ信心なり。惑染の凡夫、信心が発すれば、生死即涅槃なりと証知せしむ。必ず無量光明土に至れば、諸有の衆生を、皆あまねく教化す。

〔浄土真宗本願寺派・注釈版聖典より〕

・往相 浄土往生・成仏へ向かう姿

・還相 衆生救済の為に穢土に還り来る姿

・他力 阿弥陀仏の衆生救済のはたらき（＝本願力）

・正定 浄土往生・成仏が間違いないと定まること

・信心 如来の願心に呼応して衆生に備わる心

・惑染凡夫 煩惱（＝分別心・今を否定する心）

に惑い染まった衆生の姿

・生死 流転輪廻する迷いの世界

・涅槃 寂靜無為のさとりの世界

・無量光明土 阿弥陀如来の浄土

・阿弥陀如来と私

「私には想像が及ばない程の深い願いが、数えきれない縁を結んで私が誕生し、現に今、生かされているのだ」と仮定してみます。であれば、私の生きる意味は、私には想像が及ばないのでしよう。他人から、自らも蔑むような人生であっても、価値がないと言い切ることは出来ません。私の分別を超えた所に本当の価値・意味がある筈です。迷惑をかけてばかりの私だからこそ、実現できる価値が

あるのだと断定します。その価値は、私が認識したり納得したり出来るものではないかも知れません。だから、どんな価値なのかは分からないと放っておきましょう。どうしても納得したい、生きるテーマを見出したいのであれば、阿弥陀仏国土建設の事業に参加していると考えてみては如何ですか？

・煩惱と信心

煩悩心は余計なのか、覚悟が足りないのか「もうダメだ」と投げ出したくなるのが多々あります。そんな時は散歩に出ると良いかも知れません。沢山のいのちが、不自由な中で、文句も言わず過していることに気が付きます。樹木は日当たりが悪くても場所を移ることが出来ません。短い昆虫が力のかぎり鳴いています。犬が動かない後肢を車に乗せて前足だけで散歩しています。一生懸命なのにちに困まれているながら、私だけが、まだ出来ることがあるのに、投げ出そうとしているのでした。

人間は生死の苦しみを逃れようとして 生死に苦しんでいる

これが迷いである（曾我量深）

それを迷いと知らせてくれるのが信心かも知れません。

その苦しみに価値があると担わせる働きが往相回向でしょう。

苦しみを担い、歩む後姿が還相を現すのだと思います。

この往還の相に領くとき、涅槃浄土は足下に広がります。

他力信心に目覚めれば、正定の衆として歩む人生が開かれます。

・還相回向は念仏の歴史

利他をして自利とするのが大乘仏教の根本ですが、自らの後姿を利他（還相）とするのは少しオコガマシイ気がします。私の還相は如来にお任せするとして、私の歩むべき道について考えます。

煩惱成就の念仏者の沢山の足跡が道となって続いています。その道を半歩でも広げるように歩むことをテーマしたいと思います。

創作・会員制クラブ極楽

その店はこの街の西の外れにある。最近この街では失踪者が後を絶たないが、この店が関わっているに違いない。

中に入ると閻魔の顔をした店員が妙に丁寧な声で捲くし立てた。

― この店では、会いたい人には誰にでも会えます。

― 欲しい物は何でも手に入ります。

― 入会無料。ただし退会時にはテストがあります。

酒ならギムレット、女は斉藤由貴似と決めている俺は、店内の様子を窺った。何かがおかしい：聞こえる筈の女の甘い声が全く聞こえず静まり返っている。本当に斉藤由貴がいるのか：

俺は便所を借りる振りをして暗いホールへと入っていった。

そこには客しかおらず、ヨガの者もあるが、大方は仏の様に座ったままだ。傍らに酒は無く、栄養剤らしいタブレットが供えてある。

タブレット：受付にあった物と同じだ。

― 煩いや悩みを消し去る妙薬、入店前に必ずお飲み下さい。

カラクリが解ってきた。全てを提供すると謳いながら、イカガワしいドラッグを飲ませ、酒や女など、人間の欲望のすべてを消し去ってしまうのだ。確かに楽にはなるだろうが：それでイイのか？

俺は探偵、タフでなければ生きて行けない。閻魔の顔に詰め寄った。

― 時々お帰りになる方、ありますよ。

― その方にはこの解毒薬を飲んで貰っています。

― 全員に飲ませる訳には：テストを受けて貰わないと。

― 娑婆に帰る目的について、正しく答えて貰うのが規則です。

― ギムレットを飲みたい、斉藤由貴に会いたい：では無理です。

― 店外で奪還策を練っていると、男が独り街に帰っていった。

― 煩惱の地獄でこそ、仏の真価が顕れます。

この最低な選択に乾杯。俺は「その覚悟を忘れるな」と祈っていた。

本山納骨堂法会・団体参拝のご案内

市内・近郊のご寺院様と貸切バスにて日帰り参拝します

■ 期日 平成二十九年十一月三日（金・文化の日）

■ 日程 六時三〇分 寺集合

十時三〇分 本山着 【参拝・昼食】

十五時〇〇分 おちよぼ稲荷 【観光・買物】

十八時三〇分 豊橋着（予定）

* 予定時刻は変更になる場合があります

■ 会費 八、五〇〇円 バス・昼夕食・旅行保険代他

■ 納骨 納骨希望の方は一霊につき二万円（納骨冥加金）

■ 申込 願成寺までご連絡下さい（十月十六日まで）

■ 他 ご不明な点は寺までお問い合わせ下さい



前坊守三回忌 法要のご案内

前坊守が亡くなって二年経とうとしています。対立ばかりの母子でしたが、子は立ちほだかる壁がなくなつて、最近は少し迷走気です。様々な場面で妥協することが多くなりました。

法要を機会に、何を相続したのかを問い直し、挑むべき方向を再設定しようと思います。

ご参加いただき、母の思い出をお聞かせ下さい。

■ 期日 平成二十九年十月二十八日（土）午後四時～五時

■ 場所 願成寺本堂

■ 他 母の遺志に鑑み「ご仏前」等のご辞退致します

準備の為、参加お申し出いただければ幸いです

行事予定 平成二十九年秋以降

九月二十四日(日) 秋季彼岸・永代経法会(戸田恵信師)

お馴染みの先生の情熱的な法話です
お非時(昼食)あり
午前十時

十月二十八日(土) 前坊守三回忌

午後四時～一時間のお勤め

十一月三日(金・祝) 本山納骨堂法会・団体参拝

本山へ貸切バスにて団体参拝します
午前七時ごろ集合

十二月二日(土)

報恩講

御開山聖人御恩に報いる法会です

お非時(昼食)あり

二日 午後一時半から

三日 午前十時から

毎月一日

月例会

午後二時～ 時間変更の場合があります、

寺までご確認下さい

★年賀状対策特別企画

☆字手紙教室

・日時 第一回 十一月一日 午後三時

第二回 十二月一日 午後三時

※どちらかでも両方でも大丈夫

・講師 森亨先生(豊陽印刷社長)

・会費 用具不要にて 五百円

・要申込 十人程度

昨年好評だったイベントです

ためらわずにご参加下さい



↓ 後記 ↓

○小林麻央さんの闘い

ヤンチャで家庭を顧みなかった市川海老蔵さんが、子育てに奮闘しています。妻である小林麻央さんの闘病を共に闘う中で、彼女のいのちが乗り移るように彼を変えました。家庭人としても真向いになった海老蔵さんの、今後の活躍を応援します。

女子大生でテレビに出ていた頃の麻央さんは、特別な人格者ではなく、無垢で明るい普通の女の子に見えました。

キャスター時代の麻央さんはあまり知りません。

二七歳で世間の心配をよそに婚約を発表し、結婚。

その年に海老蔵さんが傷害事件に巻き込まれる騒動があり謹慎。世間の逆風の中で夫をよく支え、二児を授かりました。

逆境を支えた彼女に、より大きな困難が訪れます。

乳癌が宣告され、入院を余儀なくされました。家族を支える思いの強かった麻央さんです。それが出来ない苦しみは想像に余ります。

子ども達が会いに来てくれても「病気のママでグメンね」と謝る感情しが出なかつたでしょう。苦しみの中で、世話を代わってくれている人達に嫉妬したかも知れません。

家族の為にあげられる事が何もない：

病氣と闘う姿を残そう。それが子供達や支えてくれる人達の為にできる唯一のことでした。そして私にしかできない。

ブログを開設し、自身の闘いを詳らかにしたところ、思わぬ共感が広がり、逆にそのことに支えられている自分に気づきます。

会いに来てくれた子供達に「ありがとう」と笑います。

小さな子供を残して三四歳の若さで亡くなれば、人は可哀想と思いかもしれない：けれど、それは私の人生の代表的な出来事ではありません。私は色どり豊かな人生を生きてきて、より豊かになるように過ごしています。手記にそんな内容が残されました。

課題は向こうからやって来ます。大切なのは「その課題とどう向き合うか」と云うことだと学びます。